

平成22年 第16回 日南町教育委員会 議事録

日時 平成22年9月22日 PM1:30~PM2:50

場所 日南町役場 第2会議室

出席者：立脇教育委員長 山本教育委員 長崎教育委員 福田教育委員 内田教育長

委員長) 定刻となりましたので、ただ今から第16回の教育委員会を開催したいと思います。ご多忙の中、本日は委員会の後、町長との懇談会もあり長時間になりますがご協力をお願い致します。それでは、日程2の協議に入りたいと思います。あわせて、諸報告もお願い致します。

教育長) 例月の行事予定でございますが、先月報告させていただいておりますので省略させていただきます。協議ということになりますが、全国の学力・学習状況調査について概要を出したところですが、その概要を来月号の町報に出そうと思っております。本日はその原案についてご協議願いたいと思っております。併せて、サマースクールの資料も用意しておりますので確認してください。内容の説明につきましては、事務局から致します。

事務局) 最初に事後報告になりますが、今日の資料にサマースクールの成果報告と今後の取り組みについて資料をつけております。今月号の町報に掲載するようになります。12日間、地域の学習支援員さん5人、大学生の学習ボランティア11人来ていただきまして、小学生が4年5年6年生107人中40人、中学生が1年から3年生115人中64人が参加のべ536人という非常にたくさん子どもたちが参加してくれました。成果であり我々教える側からの課題等書いておりますので確認してください。1つは、成果であり取り組みの影響として、現在小学校の3年・4年生を対象にアフタースクールを実施しています。また中学校3年生を対象に、これから学力向上に向けた取り組みを行うこととしています。本題に移りますが平成22年度全国学力・学習状況調査結果について日南町の概要を事前に調査結果を送付し、それを基にした資料を用意し、生徒質問紙の分析資料をつけております。質問紙の状況について先に説明をさせていただきます。小学校の質問番号6番7番については、小中学校共通ですが、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「自分には良いところがあると思いますか」の問について、全国平均に対して20ポイントくらい低い結果になっています。中学校でいうと6番については21.2ポイント、7番については18.2ポイント低い結果で、非常に謙虚という結果になっています。9番の起床時間については、国・県と比較した場合、良い結果になっています。事前に配布した資料の中で学習状況調査について結果を見ますと、日南町の場合国語の正答率は小学校、中学校ともに全国平均より良い結果となっております。中学3年生の数学は全国平均とほぼ同じ状況になっています。ただし、小学校6年生の算数の平均は全国平均と比較してかなり下回っている状況にあります。特に算数のB問題は数学的な考え方を必要としますが、低位な状態

です。2 番目は平成 22 年度の学力学習状況調査の考察としてあげております。質問紙調査の結果、日南町の子どもたちは次の点で優れていることが分かりました。生活習慣の意識調査の中で、22 番の「夕食を家族と共にする」23 番の「学校での出来事を話す」24 番の「家の手伝いをする」41 番の「近所の人にあったらあいさつをする」35 番の「地域の歴史や自然への関心」36 番の「地域の行事に参加する」などが高い割合を示しました。このことから、家庭・地域で培った体験を基に根気強く最後までやり遂げる力を学習や色々な活動の中で生かし、達成感や充実感を感じている姿がうかがえます。次にこれからさらに力を入れていかななくてはならない点について述べてみたいと思います。1 点目は「学習意欲を高め、集中力を身につけよう」という点です。調査結果からみますと 6 番の「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」7 番の「自分には、よいところがあると思いますか」という項目が全国平均を大きく下回っています。このことから、自分に自信がなく、ちょっと難しい問題にあたるとすぐにあきらめてしまうような子どもたちの姿が見えてきます。何事にももっと意欲的に、集中して取り組んでいく姿勢を身につけていかなければならないと考えます。現在、小・中学校では学習意欲を高め、授業に集中していくための授業改善に努めています。家庭でも、子どもたちへの学習に対する意欲づけと短期間でも集中して学習に取り組んでいくような声かけと励ましが必要だと考えます。2 点目は「継続的な家庭学習を」という点になります。身についた基礎的基本的な内容を活用、応用する力は、繰り返し学習する、継続して積み上げる、他の学習や生活の中で考えることで培われるといわれています。調査の結果からみると、昨年に引き続き「自分で計画を立てて勉強している」と「家で授業の予習・復讐をしている」の項目が全国平均を大幅に下回っている状況です。このことから、まだまだ家庭学習が定着していないのが現状です。学校の勉強は、日々新しい内容を学習します。毎日一定時間は、机に向かって学習する習慣を身につけることが大切です。家庭での過ごし方について、今一度家庭で話し合い、必ず学習する時間を確保してほしいと思います。2 ページです。教育委員会の重点方針にも挙げております、読書を通して読解力を身につけようということですが、この調査で資料やデータの読み取りとかが分ったことに基づいて意見を書く問題がたくさんありました。そのような問題を読み取る力が十分ではないという結果が出ています。現在の社会は情報を的確に読み取り判断する力や根拠に基づいて意見を述べる力が求められています。また、読書によって読解力がつくことはもちろん情景や行間のイメージを想像する豊かな心や表現力が育ちます。現在、日南町の小中学校では、朝の一斉読書や図書の読み聞かせ活動を推進しています。その効果は日南町の国語科の成績が安定しているというに繋がっています。これからもっと目的意識を持って読書をしたり調べ学習に読書を活用したりしていくことを身につけていく必要があります。新しい学習指導要領の中で学力の 3 要素というのがあります。基本的、基礎的な知識技能、2 点目が思考力・判断力・表現力、3 点目が学習意欲です。具体的に学習に取り組む態度等これらが学力の 3 要素になります。そういう面で言うと本を通して調べ学習をするという点で言うと、かなり鍛えていかない

といけないということになります。3番目最後になります。本町の最後の取り組みを載せております。現在日南町教育委員会では、学力向上対策と学校・家庭・地域との連携強化と教育力の向上に力を入れております。例えば、小中一貫教育に力を入れ児童・生徒の交流に力を入れ授業参加や自然教室、音楽発表等あらゆる場面で小中の交流を図っています。また、小中学校の教員の研修にも力を入れ児童・生徒の学習意欲を高めしていくための授業改善に取り組んでいます。学校支援地域本部事業や学力向上プロジェクトなどの取り組みを進めていきながら、例えばサマースクール等を実施して学力向上に努めています。今後も小中学校と連携して確かな学力と生きる力の育成のために個に応じた学習や小中学校の交流活動地域の人々の支援による体験学習などを充実させていきます。最後に3点分る授業の研究実戦と書いています。2点目、家庭や地域の協力を得ながら学びの基礎力を育成する。例えば家庭学習の習慣化やテレビ視聴時間の短縮、読書活動の普及、食事の仕方、家庭内でのルール作り、最後に学校支援地域本部事業の推進について書かせていただきました。こういう形で今年度の学力学習状況調査の日南町の概要について広報させていただけたらと思いますのでご協議願います。

委員長)今、説明がありましたが事前に配布された資料をご覧になってお気づきの点があればご発言いただければと思います。手直しということもできないと思いますが。

教育長)いえ本日、1ページ、2ページについて協議、ご意見をいただき調整したと思います。

委員長)まだ、間に合うということですね。みなさんご意見ありませんか。

委員)グラフとか入れられずに文字だけですか。去年は棒グラフなど入れたような気がします。

事務局)去年はそうでした。

委員)数字も何も入っていないけど。

教育長)比較論でみるのか、根本的な問題をピンポイントで記述で読んでもらうかということになるでしょうけど、去年が分らないのですが、今回はあえてグラフなしに読んでもらうという思い書いてもらっています。したがって、グラフがあった方良いということであればグラフを載せるのも良いと思います。

委員)今の委員の意見について答えになるのかならないのか分らないんですけど、私はこ

ここに書かれています、ちょっと難しい問題にあたるとあきらめてしまう、というのが学習に限らずすべての面において大きいのではないかなと気になっています。実際にスポーツにおいてもそうですし、「失敗しても思いっきりいけよ」といいながら、「ほらみる」という世間の風潮もあつたりすると思います。そこをちょっと、さらっと流さずに書いていただきたいと思います。もう一つ、平均点と比べた点数よりもこういう文章でピックアップして必要なことを書きだされた方がよくわかるのではないかなと思います。別のところですが、小中一貫教育ということが出てきます。よく、これは何だと何度説明しても聞かれます。ここでまた小中一貫教育の取り組みというのが入り、またどういうことかなというのが出てくるかと思しますので、この言葉以外で小中学校が連携しているという表現はできないでしょうか。

教育長) 逆にお伺いします、小中一貫教育は悪いのですか。

委員) 悪いではありません。意味が分からないというのが良く聞かれて。

教育長) ここでは、議論はされていないんですか。小中一貫教育という意味について。

委員) ここではじゃないですよ。言葉の意味を言っても、住民の方に聞かれて、私たちは何をすればいいのかと聞かれます。これは、考え方のことで

教育長) これは日南町の大きな柱ではないのですか。

委員) 柱なんですけど、住民に説明するときに、これがそのまま町報に載るわけですよ、また「どういうことかな」というのが出てくるのではないかなという気がするのです。

教育長) それを説明していただければいいのではないのでしょうか。

委員) 説明されるのであれば、それでいいです。

教育長) いいえ、委員のみなさんも説明されればいいのではないですか。みんな、その説明をする責任があるわけですから。

委員長) そういう疑問を持たれる方がおられるので、そういう場にでくわしたら、問われた人はもちろんのこと、その場にいた人が説明していかなければならないということです。その時に一番簡単に説明するマニュアルというか、言葉の準備をしとくことが必要です。

事務局) 小中一貫教育ってなんですかっていまさら言われても、町報の4月号にもちゃんと説明をさせてもらっています。それよりもっと詳しいものをといわれるのであれば、何らかの形でマニュアルなど作らないといけないのかなと思います。実際に、小学校、中学校の先生一つとってみても、小中繋いでの授業に取り組んでもらっています。それをみながら小中一貫教育ってなんですかといわれても、それはどうなんですか。

委員長) 今更とりたいんですが、現実分らない方もいらっしゃるわけで

委員) 今回、学力状況調査の報告ですよ。5000人人口がいて全員が理解することは不可能ですよ。何人くらいの方に質問されたのかわかりませんが、今回はこれで良いのではないかと思います。小中一貫が問題なわけではないので。小中一貫を説明し始めたらもう1ページ必要になってきます。

教育長) 教育行政の政策の中にぶれるやり方は絶対に駄目だと思います。現実小中一貫教育になっているかという点はまだまだの状況です。ただ、方向性として小中一貫教育を目標としてやっている訳で、小中一貫教育という言葉を使っていかないといけないと思います。

委員) 原稿の小中一貫という言葉の前にも内容が触れてありこれでいいと思います。初めて出てくる言葉ではないので。5000人いれば、理解できていない人もいますが、そこに視点を持ってくることはどうかと思います。

委員長) 一貫教育という言葉は、外すこともできないし、ぶれることもできないわけですが、その説明の段階で、目標は一つ何だということでは貫かないといけないと思います。問われた時に連携という言葉を使うことも間違いではありませんし、繋がりという言葉も間違いではないと思います。現在、保育園も含めた形で一貫教育を進めているところです。問われた時には、分りやすく説明していきましょう。

委員) さっきの表を出す出さないという点はどうでしょうか。

委員) 出さないのでしょうか。

比較ということではいけないといことを言われましたし。賛成します。

委員) 今回、事前に送っていただいて、まとめるのは大変だったと思います。それですね、1番についてこれまで議論してきましたよね。学力のことについて、これまで色々資料を送ってもらいましたが、一般の方が読むわけですよ、こういう書き方でいいと思いますが、ただこれを読むとさっとしすぎていると思います。もう一つは全国と比較し

てありますよね、なぜ県と比較しないのだらうと思いました。全国では広すぎてばやけているのではないかと思います。県と比較した方が良いのではないかと思います。県と比較してみたら、ほとんどの項目について悪い結果になっています。今書いてある原稿と違う結果になっています。悪い結果を書けというわけではありませんが、身近な県と比較して書くべきではないかと思います。そういう面では表・グラフでの比較が必要ではないかと思えます。

教育長) 日南町の学力は小学校も中学校も決して高くないと思っています。今回の小学校3年生と6年生はこうでしたよと、来年はあがる可能性もあれば、下がる可能性もあると思います。教育の中で子どもたちに、指摘して、応援して、ほめていく教育もあると思います。中学校長の弁によると日南町は褒めるということが地域全体として少ないと指摘しています。学力学習調査をみますと全国平均より高い。よくがんばったといことになりませう。今年が高くなっています。ただ、比較論で言うと低いという結果になってしまいます。ましてや県平均を出すとさらに低くなってしまいます。比較というのはどこかでないといけないと思いますし、数字としての評価はしないといけないと思います。そして良く頑張りましたと褒める部分があつていいと思います。今回は、ここがポイントで強くしていかなければならないというのが2番、3番に書いてあるわけで、1番が少ないというのは分りますが、あまりここを書いていきますと、2,3番のポイントに行く前に読むのをやめてしまし、悪い結果ばかり印象付けるようになります。今回の原稿はこの程度におさめないとな次の段階みんなて頑張つていこうという段階に進まないと思えます。

事務局) 全国との比較だけということについてですが、今年初めて抽出調査になりました。鳥取県で言うと小学校は44.4%の63校しか参加していません。中学校は55.6%の35校。鳥取県に210校の小学校があるんですけどもその半分にも満たない学校しか参加していない。鳥取県のレベルをみても、大きな誤差があるわけです。それを数字で広く相対的にみるのであれば全国の方がいいと思えます。ただ、全国でも3割ちょっとです。そういうような抽出ですので、県のHPにも載っていますが、これはあくまでも全国レベルの抽出調査なのでこの数値を使って比較するのは控えてほしいと書いてあります。誤差が1~2%程度あると思つてみてくださいとなっています。去年はオブラートに包んだようなグラフの出し方をさしていただいたわけですが、結局教科ごとのグラフを用意しても変わりませう。それならグラフを出しても意味がない。

委員) ならば、全国とも比較する必要もないわけで、違う書き方で比較しなくても例えば正答率をみれば分りますよね。文章にして算数が苦手とか比較しない書き方もありますよね。

事務局) 事前にお配りした資料をみていただければわかると思いますけど、例えば去年に比べて、国語とか伸びが良い結果になっています。中学校の数学Aなんかは全国と比較しても伸びが良いわけで、日南町の子のがんばりというのは分るわけで。

委員) そういうことを書けばいいじゃないですか。

事務局) ただ、比べてみると「全国平均だよ」という結果なんです。分析の仕方については色々な分析の仕方があるって、学校の先生は個々の成績を分析されるわけで、これが一概に日南町の学力と言えないわけで。

委員) 今言われたように、見出しをインパクトのある形にして、他と比較しないで昨年との比較を載せればいいのではないかと思います。元気を出させる書き方をしないといけないんで。

教育長) 一つの意見ですよ。

委員) これは、元気を出させるために出すんですか。

教育長) 現状を知ってもらうためと元気を出すための両方ですよ。

委員) 一番言いたいのは、2番だと思うんですよ。1番は結果をみての現状ですよ。結果に感情はいらんんですよ。

教育長) 委員の言われたのは、読ませないといけないということを言われたわけで。

委員) 最初にグラフの話をして、比較論ではいけないということで納得したので、あまり比較ということで、文章を書くのはどうかなと思うのと、それと最初のところにどの学年を対象にしたのか入れといた方がいいと思います。

教育長) 今までのご意見を聞いて決めてレイアウトしていきましょう。

委員) 先ほどの一貫教育のところですが、文章を一貫教育の場所を今の位置からその文の最後のところに持って行った方が一貫教育の意味も分るんじゃないでしょうか。

教育長) 本日出していただいた委員の意見を基に、再度事務局なり、学校現場で検討して、再構成して出します。

事務局)最後に全国学力学習状況調査についてですが、資料の生徒質問紙の分析を帰ってゆっくり見てご意見等いただきたいのですが、平成19年度の小学校6年生の数値は今年度の中学校3年生になります。それを比較して、これはまた別の集計になるんですがこれからの教育委員会で協議される来年度以降の施策等でご活用いただければと思います。小学校6年生の時と比べて中学校に入って一気に下がっている項目があります。例えば質問紙の6番の「難しい問題に直面した時」という項目や「自分には良いところがあると思いますか」とか特にこれらの項目はレベルが下がっています。逆にポイントが上がっているのが「テレビゲームの時間」とかです。「2時間以上勉強している」については、6ポイント以上下がっています。また、予習復習についても小学校の方が良い結果になっています。この結果、時間がない中で毎日遅くまでする部活動のあり方。スポ少についても同様ですが。分析をすればするほど子どもたちの時間の使い方を再検討する必要があると考えます。

委員長)言われるように、事前にもらった質問紙を見ていたら学習の不足が目立ちました。子どもの1日を子どもの一週間を関係者で議論していく必要があると思います。表現や表・グラフの件について内部で再検討いただく等若干修正していただいて町報に出していただくということで良いですね。それでは、議事に入りたいと思います。日程1の第30号であります。説明をお願いします。

教育長)平成21年7月30日に改正しました日南町立学校教職員の安全衛生委員会の組織及び運営に関する規程についてでございます。これは、労働安全法を根拠法令とするものでありまして、基本的には職場の安全衛生、安全委員会、衛生委員会この二つを組織して定期的に労働者と事業者が協議しながら職場・従業員の安全衛生を図っていくものであります。この規定ですが、事業者として教育委員会をとらえてあるところなんですが、法令上事業者というのは、建物単位で見ることになっています。学校で言うと小学校、中学校ということになります。日南町の場合、小中一貫ということで一つの事業所としてとらえていいと思います。現行では、教育長が入っていて議長ということになっていましたが、これはふさわしくないということで、小学校または中学校いずれかの校長が議長となってという内容に変更させていただくものです。ただし、労働組合からの要望もありまして、出来るだけ会議に入って頂きたいということで、必要に応じて教育委員会の方が入れるような事項を加え改正案を作っております。ご審議をお願いします。

委員長)説明をいただきましたが、このとらえ方に瑕疵があってそれを正すということになります。

教育長)これについては、県教委にも確認しております。

委員長)何かございますか。質問がございませんので、この改正案でご承認いただけますでしょうか。

委員全員)承認します。

委員長)では、承認されました。以上で議事を終了します。本日はこれで終了したいと思います。